

平成30年「周知徹底事項」

日本高等学校野球連盟
審判規則委員会

高校野球は甲子園の全国大会も都道府県大会でも、すべて同じ考え方で運営されていなければなりません。また高等学校野球連盟の役員と審判委員は、いつも同じ考え方、同じ立場で高校野球を運営、指導すべきです。以下について、周知徹底をお願いします。

1 試合をテンポ良く進めるために

- ① 攻守交代時、先頭打者および次打者とベースコーチはミーティングに参加せず、速やかに所定の位置につく。
- ② サインは複雑なものはなくし、速やかに出すよう監督に協力を求める。
- ③ 遅延行為と見なされる投手のけん制はしない。(例えば離塁していない走者へのけん制など)
- ④ 捕手の動作は機敏にする。(速やかなサイン、用具の着脱、バックアップや打ち合わせの後、速やかに守備位置へ戻るなど)
- ⑤ 投球を逸した捕手は敏速にその球を自分で処理する。
- ⑥ 捕手のブロックサインは禁止。また内野手から投手へのサインは簡単にする。
- ⑦ 内野手が投手へ返球する場合、塁線から投手よりに近づかず送球する。

2 マナーについて

- ① 投手のウォームアップ時に、次打者などが打者席付近に近づき、タイミングを測る行為を禁止。
- ② 走者やベースコーチなどが、捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。もしこのような疑いがあるとき、審判員はタイムをかけ、当該選手と攻撃側ベンチに注意を与え、すぐに止めさせる。
- ③ ベースコーチが打者走者(走者)の触塁に合わせて『セーフ』のジェスチャーとコールをする行為の禁止。
- ④ 本塁打を打った打者の出迎えはしない。
- ⑤ 喜びを誇示する派手な「ガッツポーズ」などは、相手チームへの不敬・侮辱につながりかねないので慎む。

3 規則上特に注意すべき事項について

- ① 投手に基本的なルールを徹底する。(投手板への着き方、自由な足の位置、自由な足の踏み出し、軸足の移動とはずし方、投球動作・ストレッチの中断など)
- ② 捕手(野手)はボールを持たないで、走路に位置してはいけない。
- ③ 走者の野手に向かってのスライディング。
- ④ 打者走者のダイヤモンド内へ膨らんでの走塁や、送球を妨害する意図をもって野手に向かう走塁。
- ⑤ 盗塁を助けるため捕手の送球直前のスイングや、わざと打者席から前へ出る行為。
- ⑥ 死球を得るために投球のコースから逃げない打者(投球を避ける動作のないもの)

4 その他

- ① 金属製バットおよびヘルメット(打者用、捕手用とも)の保守、点検の励行。
- ② 試合中に死球などで大きな衝撃を受けたヘルメットは使用不可。
- ③ 危険防止のため、グラウンド内にいる全ての選手(特に次打者、ブルペンの選手)は投手が投手板に位置したならばプレイに注目すること。また試合中、練習中を問わず、捕手が座って投球を受ける場合は必ず捕手用具一式を着用のこと。
- ④ 日程、時間に余裕がある場合でもスピーディーな試合進行の励行。
- ⑤ 投手はロジンバッグを指先だけで使用し、丁寧に取り扱うこと。

以上